盲人バルテマイの信仰

ルカ福音書18:35-43（新改訳2017訳）

18:35 イエスがエリコに近づいたとき、一人の目の見えない人が道端に座り、物乞いをしていた。
18:36 彼は群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事かと尋ねた。
18:37 ナザレ人イエスがお通りになるのだと人々が知らせると、
18:38 彼は大声で、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と言った。
18:39 先を行く人たちが、黙らせようとしてたしなめたが、その人はますます激しく「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と叫んだ。
18:40 イエスは立ち止まって、彼を連れて来るように命じられた。彼が近くに来ると、イエスはお尋ねになった。
18:41 「わたしに何をしてほしいのですか。」するとその人は答えた。「主よ、目が見えるようにしてください。」
18:42 イエスは彼に言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました。」
18:43 その人はただちに見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て、民はみな神を賛美した。

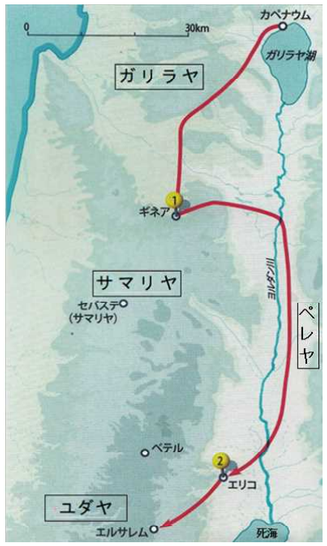
【祈りながら考えよう】

（１）盲人バルテマイが、主イエスのことを「ダビデの子」と呼ぶ意味を説明して下さい。
（２）彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたのはなぜですか。
（３）「あなたの信仰があなたを救いました」とはどういう意味ですか。

【解　説】

（１）エリコに近づかれた時

《イエスがエリコに近づかれたとき、一人の目の見えない人が道端に座り、物乞いをしていた。彼は群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事かと尋ねた。ナザレ人イエスがお通りになるのだと人々が知らせると》



主イエスのエルサレムへの旅行は終わりに近づいていた。ヨルダン川の東側に沿って南下し、サマリヤ地方が終わるあたり、川が死海に注ぐその河口に近いあたりまで来た時、コースを西に向ける。そこに、渡るによい浅瀬がある。

そこを渡るとエリコがある。エリコの町を通ってエルサレムに入る。ルカは、《イエスがエリコに近づかれたとき》に起こった出来事を次に記している。

マタイとマルコは、主がエリコを出て行かれた時に起こった出来事として記している（マタイ20:29、マルコ10:46）。さらにマタイはふたりの盲人がいたと書いているが、マルコとルカの記事にはひとりしか出てこない。

ルカは「エリコ」という名の新しいほうの町を、一方、マタイとマルコは古いほうの町を指しているのかもしれない。また、盲人の目を開けるという奇跡が、同じ場所で２回以上行われたのかもしれない。いずれにせよ、みことばを深く学ぶことによって、矛盾していると思えることも解決するに違いない。

（２）ダビデの子のイエス様

この盲人は、マルコ福音書によると、テマイの子バルテマイという名前であったことが分かる（マルコ10:46）。彼が道端に座って物乞いをしていたということから想像して、おそらく身寄りもなく、だれも彼の面倒を見てくれる人がいなかったのだろうと思われる。

ある日のこと、いつもとは様子が違う。群衆が通り過ぎていく気配がする。そこを行く人々に、「これは一体何事ですか」と尋ねると、ナザレのイエスがお通りになると言うではないか。

以前からナザレのイエスについての噂（うわさ）は聞いていた。聾唖者（ろうあしゃ）が話せるようになり、重い皮膚病患者がいやされ、悪霊が追い出されて、普通の人になったこと、また盲人が見えるようになったこと。これはみんなが話していたことである。さらに、イザヤ書35章には、メシヤが来られると、いやしをなさることが預言されていた。

《……心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ。恐れるな。見よ。あなたがたの神が、復讐が、神の報いがやって来る。神は来て、あなたがたを救われる。」そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開けられる。そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。荒野に水が湧き出し、荒れ地に川が流れるからだ。焼けた地は沢となり、潤いのない地は水の湧くところとなり、ジャッカルが伏したねぐらは葦やパピルスの茂みとなる》（イザヤ35:1-7）

そこで、バルテマイは、大声を上げて言った。「ダビデの子のイエス様。私をあわれんでください。」

（３）執拗に叫び立てた

《先を行く人たちが、黙らせようとしてたしなめたが》

主イエス一行（いっこう）の先を行く人たちが、バルテマイを黙らせようとした。彼を黙らせようとしたのは、主イエスのエルサレムへの旅は、主イエスの身の上にエルサレムで何かが起こるという緊張した空気を察してのことであったと思われる。

そのような時に、個人的なことで主イエスを煩（わずら）わせたくないという思いがあったに違いない。

しかし、バルテマイは、いくらたしなめられても、大声で叫んで言った。彼は必死である。

彼は自分を黙らせようとする人々が制止するのも聞かず、また同じように言った。

《ダビデの子よ。私をあわれんでください》

これは、この時の一般の人々のイエスに対する考え方とは全く違っている。一般の人々は、主イエスのことを、預言者の一人ぐらいにしか考えていなかった。しかし、バルテマイは、はっきりイエスに対して「ダビデの子（すなわちメシヤ救い主）」と告白している。群衆は、物乞いに関心を寄せなかったが、イエスだけは違っておられた。

（４）わたしに何をしてほしいのか

このバルテマイの信仰告白を聞かれた主イエスは、彼をそばに連れて来るようにと言われた。それを聞いたバルテマイは、飛び上がって喜び、着ていた上着を脱ぎ捨てて、主イエスの所へやって来たとマルコ福音書には記されている。

バルテマイが主イエスの所に近づいてくると、主はお尋ねになった。《わたしに何をしてほしいのですか》

人の心の中を見通される主がこのように言われたのは、彼の心の思いを知らないからではない。彼自身に、「本当に求めが何なのか」を、自分の口で言わせたかったからである。彼は答えた「主よ、目が見えるようにしてください」

（５）あなたの信仰があなたを救った

バルテマイは、主イエスが人の目をあけることのできる「メシヤ」であるという信仰を持って答えている。すると、主は、彼に言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました」

バルテマイは《その人はただちに見えるように》なった。しかし、彼の場合、目が見えるようになったことで、事は終わらなかった。彼は神をあがめながらイエスについて行った。ここで教えられることがいくつかある。

①バルテマイの信仰

主イエスはエルサレムへ行って、全人類のために十字架上で死ぬという偉大なわざを直前に控えて、盲人バルテマイの目をあけておやりになった。主は全人類を救うことと、この一人のあわれな盲人バルテマイを救うことを別のこととはお考えになっておられないということである。

バルテマイは、この世の一般の人々が持っていたイエスについての評価や噂があっても、彼は彼自身のイエス観を持っていた。このお方こそ、旧約聖書に約束されている救い主メシヤにほかならないという信仰である。それが「ダビデの子」という言葉によって表されている。

また、彼は、この目で救い主を拝見したいという思いもあったに違いない。さらに、主イエスによってあけていただいた目を持って、主イエスがご覧になっておられるように、この世の人々を見てみたいという思いもあったのではないかと思われる。主イエスは、「あなたの信仰があなたを救いました」と言われた。

②弟子として従って行った

バルテマイ自身、自分に信仰があり、その信仰が大きな力を働かせるのだなどとと考えてもいなかったに違いない。しかし、主イエスは確かに「バルテマイの信仰」をご覧になっておられた。ただ単に、彼が自分の肉眼（にくがん）の開眼（かいがん）を願っていたのではないということをご存知であった。

バルテマイには、イエスに対する「救い主信仰」があった。だから、彼は目が見えるようになった後、神をあがめながら、主イエスの弟子として従って行ったのである。